

環境報告書2019

Environmental Report 2019



Top Message



株式会社クレハ環境

近年、パリ協定の発効や国連による「持続可能な開発目標(SDGs)」の採択などにより、企業には脱炭素経営、ESG経営の推進が強く求められています。

当社は、産業廃棄物処理、環境修復及び環境エンジニアリング事業を通して、地球環境を保全し、持続可能な社会の構築に貢献できるよう、さまざまな環境問題に取り組んできました。これからも廃棄物を安全に輸送し、適正に無害化処理してまいります。また、エンジニアリング事業を通じて排ガスの浄化や水質改善を提供し、地球環境の負荷低減、環境改善を進めてまいります。

2018年度、当社は好調な国内製造業の廃棄物処理需要を取り込み、顧客との信頼関係強化と競合との差別化を掲げた取り組みを行ったことで、売り上げが大きく増加しました。

また、ISO9001（品質）、ISO14001（環境）の統合マネジメントシステムの運用を継続するとともに、新たにISO45001（労働安全衛生）の認証も取得しました。

当社が事業運営基盤の根幹としているのは「安全」です。「安全はすべてに優先する」の方針のもと、CSR経営の推進と、技術やサービスの企業価値向上を図りながら、社会からより一層必要とされる会社になれるよう取り組みを進めてまいります。

今般、管理型最終処分場を営む「ひめゆり総業株式会社」の全株式を取得し、完全子会社といたしました。これにより産業廃棄物の収集運搬から中間処理、最終処分までの一貫したサービスの提供体制が整いました。このようなワン・ストップのサービスを行うことにより、お客様や地域の皆様のニーズに適切に応え、持続可能な社会形成に貢献したいと考えています。

今後とも格別のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 佐野 健

目次

事業の概要	4	環境エンジニアリング事業	18
事業活動に係る環境配慮	5	安全文化の再構築	20
環境配慮経営の経済的側面	6	安全衛生活動	22
環境に関する規制等の遵守状況	7	地域とともに	
資源投入量&廃棄物処理量&温室効果ガス 他の排出量	8	地域交流会	24
ウェステックいわき	10	クレハグループ CSR地域対話集会	24
ウェステックかながわ	12	小学生がウェステックいわきを見学	25
各種排出物の測定・分析値等(いわき)(かながわ)	14	川崎国際環境技術展に出展	25
低濃度PCB廃棄物無害化处理	16	さまざまな取り組み	26
W.I.Lセンター	17	沿革・お問い合わせ先	32

環境報告書

本報告書は、2018年度の当社のレスポンシブル・ケア(RC)活動をはじめとする様々な取り組みについてご紹介しています。

ー昨年末まで「RC報告書」という名称でご報告しておりましたが、昨年度より「環境報告書」と名称を変更いたしました。

- 参考にしたガイドライン『環境報告書ガイドライン2012年度版』
『環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)』…以上、環境省
- 対象期間 2018年4月1日～ 2019年3月31日
一部に2019年度内および今後の予定を含みます。
- 対象範囲 全部署
- 免責事項 本報告書には、発行時点における計画または将来予測が含まれています。この将来予測については諸条件の変化により異なったものとなる可能性があります。また、記載の表やグラフの数値は算出方法の見直し等により、一部過年度データを修正している項目及び端数処理により合計に誤差が発生している項目があります。みなさまにはご了解いただきますようお願いいたします。

企業理念

1. 人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社をめざして、たゆまぬ努力を続けます。
2. 安全なサービスと商品を提供し、住みよい豊かな社会づくりに貢献します。
3. 地域に根ざした会社として、地域と共に発展し続けます。
4. 法令および社会的規範を遵守し、オープンな企業活動を通じて、社会から信頼される誠実な企業市民をめざします。
5. 社員一人一人が互いの人格、個性を尊重し、創造力とチームワークを最大限に高め、魅力あふれる企業風土をつくります。
6. 時代の流れを先取りした技術の研究と開発に、情熱を持って取り組みます。

マネジメントシステム基本方針

考え方/目標/目的

活動方針

法令・規制・自主基準を遵守し、統合マネジメントシステムによる品質・環境・労働安全衛生に関わる諸活動を通じ、地域および事業を取り巻くステークホルダーの信頼を深め、企業価値の向上に努める。

● 提供する製品・サービスの品質を向上させ、顧客満足度アップを目指す。

● 環境事業の経験を活かし、環境保護に努める。

● 活発な安全衛生活動を通じてより安心安全な職場造りを行う。

レスポンシブル・ケア方針
(クレハグループ方針)

1 国際規則や法令を守ります

2 地球環境に配慮し、安全な操業をします

3 安全な製品を社会に提供します

4 環境・安全の情報を管理し、役立てます

5 社会とのより良い関係を築きます

■クレハグループRC協議会構成図

クレハエンジニアリング

クレハ合繊

クレハ環境

クレハ

クレハ運輸

クレハ分析センター

クレハエレクトロニクス

レジナス化成

クレハ鋳造

クレハ建設

クレハグループRC協議会
分科会

● 環境保全／エネルギー管理分科会

● 保安防災／労働安全衛生分科会

● 製品安全・品質保証／物流安全分科会

● 地域との共生分科会

レスポンシブル・ケア(RC)とは…

化学物質を製造または取り扱う事業者が自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保する改善活動を継続的に行い、社会との対話・コミュニケーションを行うことです。

クレハグループは1995年にRC活動の実施を社会に対して宣言しました。

事業の概要

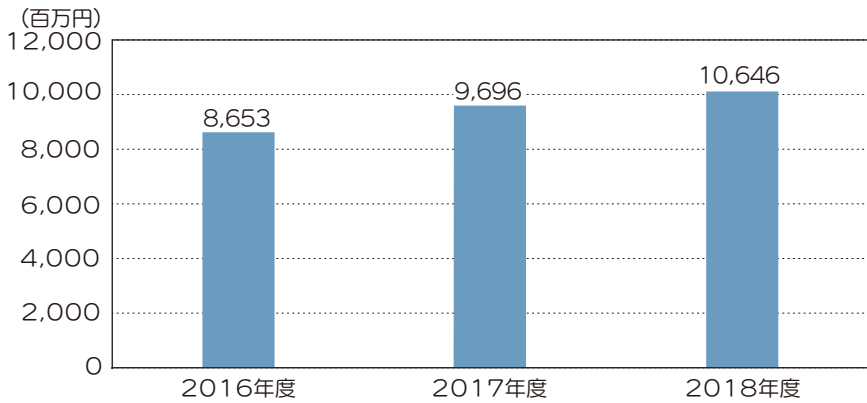
会社概要

商 号	株式会社クレハ環境
本 社 所 在 地	〒974-8232 福島県いわき市錦町四反田30番地
主 な 事 業 所	本社、ウェステックいわき、ウェステックかながわ
設 立	1971年12月1日
資 本 金	2億4,000万円
従 業 員 数	385名(2019年3月末)

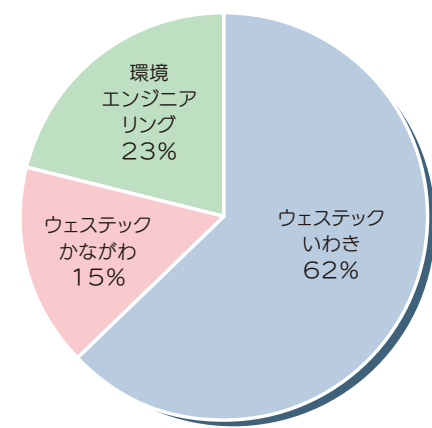
事業概要及び業績

主要な事業	産業廃棄物の収集運搬・処分、 建設業(環境エンジニアリング)、発電事業他
-------	---

売上高実績推移



部門別売上構成比 (2018年度)



経営企画本部 経営企画部 経営企画課長 佐々木 千聡

2019年4月に福島県いわき市で管理型最終処分場を営むひめゆり総業(株)の株式を100%取得しました。今後当社は、産業廃棄物の収集運搬から中間処理、最終処分までの一貫したサービスの提供で、世の中の環境に関わるお困りごとに対応しながら、社会貢献に努めてまいります。

事業活動に係る環境配慮

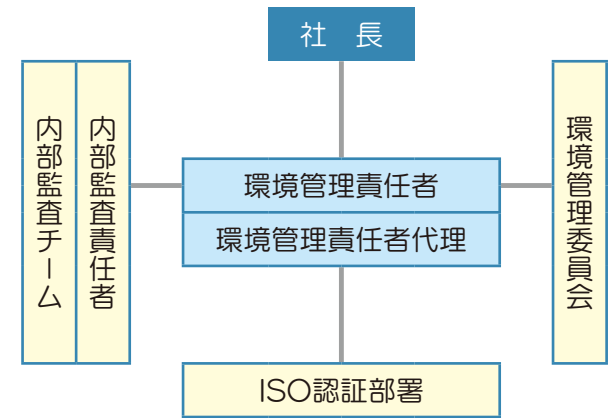
環境マネジメントシステム(EMS)の運用状況

環境管理委員会を1か月に1回、環境活動の進捗把握を目的として開催しました。

2018年度ISO14001の環境目標と結果

環 境 目 標	目 標 値	結 果	説 明
社外ステークホルダーとの良好な関係維持。	地域美化活動の実施 (年10回以上)	達成	地域とのコミュニケーションの一つとして、会社周辺の各種美化活動を10回実施し、目標を達成しました。
廃棄物受注情報に起因する廃棄物入荷時の問題点を前年度比5%削減する。	前年度実績193件 →2018年度目標 184件以下	達成	148件(前年度比23%の削減)となり、目標を達成しました。
<いわき処理部> 環境苦情件数ゼロ。 環境苦情に関する取組を維持する。	0件	未達	当社起因の臭気苦情が1件発生し、目標未達となりました。
<かながわ処理部> 環境苦情件数ゼロ。 環境苦情に関する取組を維持する。	0件	達成	煙突内部や煙道の定期的な清掃や点検等の実施により目標を達成しました。
外部工事における環境事故「ゼロ」件	0件	達成	環境影響配慮チェックシートによる現地工事の遂行で目標を達成しました。

取り組みの体制

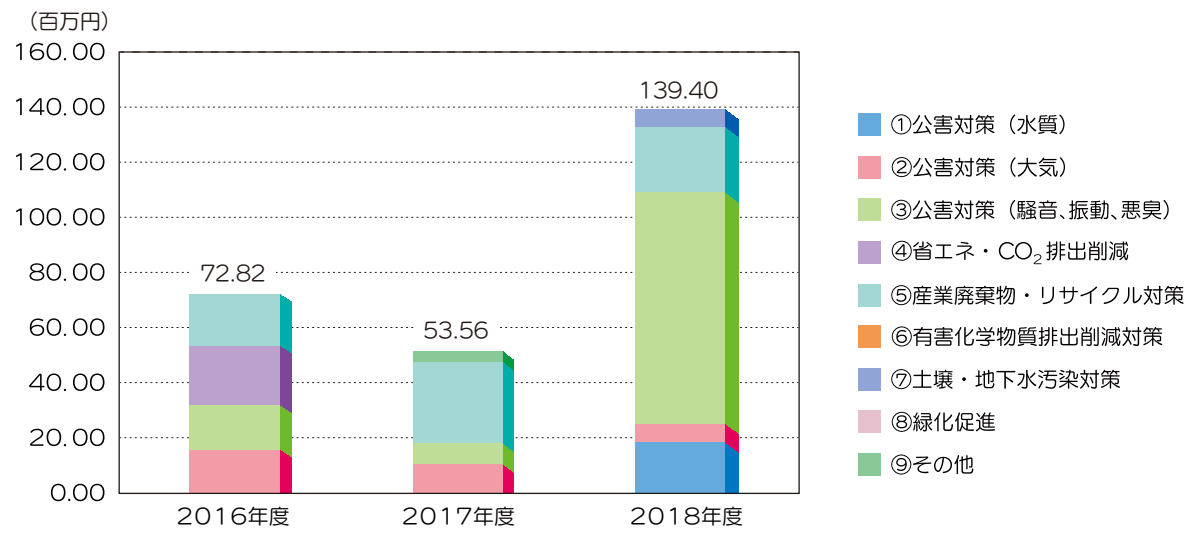


環境報告の信頼性に係る内部統制

当社では、認証範囲のすべての部署で、年に1回、ISO14001内部監査を実施しています。2016年度には、ISO9001:2015年版の新規取得していますので、内部監査については、両規格合わせて実施しました。また、外部機関による審査は2018年6月に実施しました。

環境配慮経営の経済的側面

環境対策投資金額



環境対策投資金額

2018年度は、対前年度比2.6倍となる環境対策投資を実施しました。
2016年度から①、②、③の公害対策(水質、大気、騒音・振動・悪臭)を継続しつつ、2018年度は③の騒音・振動・悪臭対策において特に積極的な環境対策を行いました。また、⑤産業廃棄物・リサイクル対策として、材質変更による一部機材の長寿命化への投資を行いました。

環境対策投資金額 (百万円)

分 類	2016	2017	2018
①公害対策(水質)	0.00	0.60	18.90
②公害対策(大気)	17.11	10.52	6.87
③公害対策(騒音、振動、悪臭)	15.45	8.01	83.52
④省エネ・CO ₂ 排出削減	23.20	0.00	0.00
⑤産業廃棄物・リサイクル対策	17.06	30.46	23.73
⑥有害化学物質排出削減対策	0.00	0.00	0.00
⑦土壌・地下水汚染対策	0.00	0.00	6.38
⑧緑化促進	0.00	0.00	0.00
⑨その他	0.00	3.97	0.00

環境に関する規制等の遵守状況

2018年度 環境に関する法令・規制等の遵守状況

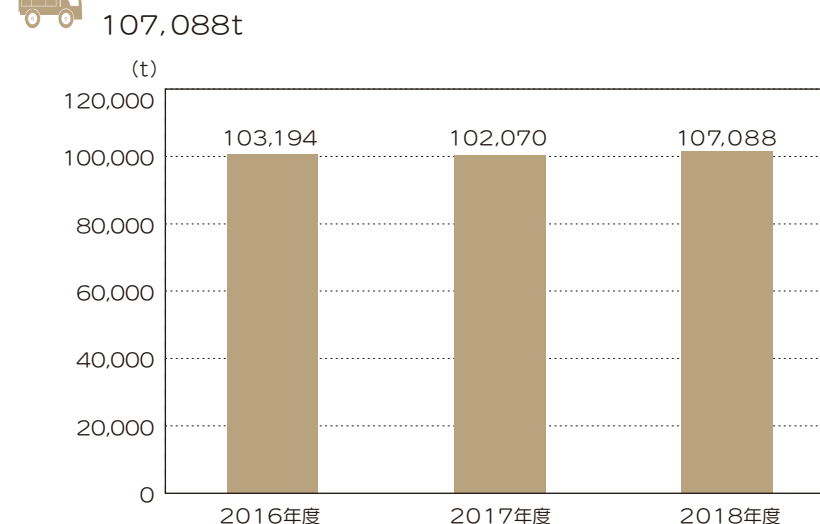
当社はマネジメントシステム基本方針に「法令・規制・自主基準の遵守」を掲げています。法令等の遵守のために、当社は1998年に認証を取得した国際規格ISO14001を活用し、法令・規制等の登録、遵守状況の評価を実施しています。評価の結果、2018年度も遵守状態を維持していることを確認しています。

主な環境に関する法令・規制一覧

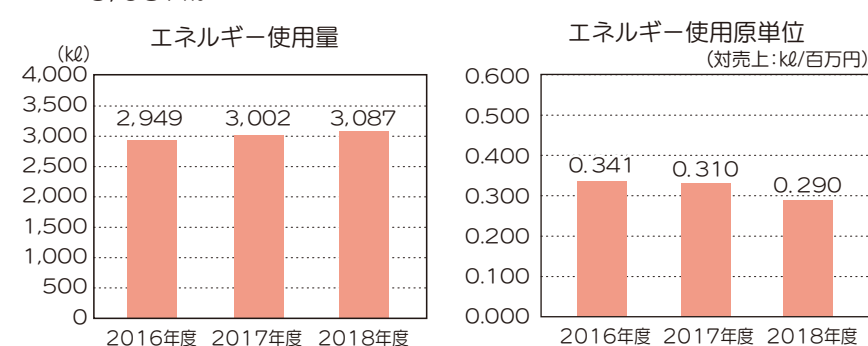
No	法律等の名称	内容等
1	大気汚染防止法 水質汚濁防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 化学物質排出把握管理促進法 福島県、神奈川県、いわき市、川崎市環境関連条例 公害防止協定(いわき市)	大気汚染、水質汚濁の防止対策関連
		大気汚染、水質汚濁に係る測定、調査、届出関連
		悪臭の防止対策関連
		悪臭物質、産業廃棄物に係る測定、調査、届出関連
		振動騒音等の防止対策関連
2	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物処理施設の維持管理基準関連
		産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の保管基準関連
		産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬業許可基準関連
		産業廃棄物管理票交付等状況報告関連
3	金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令	産業廃棄物処理施設の行政による定期検査関連
		燃え殻、脱水汚泥に係る埋立処分に係る判定基準関連
		温室効果ガス算定排出量の報告
		危険物貯蔵所等の行政立入検査関連
4	地球温暖化対策の推進に関する法律	特定事業者のエネルギー使用量の定期報告義務関連
5	消防法	水銀廃棄物の環境上適正な処理関連
6	エネルギーの使用の合理化に関する法律	水銀廃棄物の収集運搬、処理の基準関連
7	水銀廃棄物のガイドライン	フロン類の破壊量報告関連
8	低濃度PCB廃棄物収集・運搬ガイドライン、低濃度PCBの処理に関するガイドライン	
9	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	

インプット

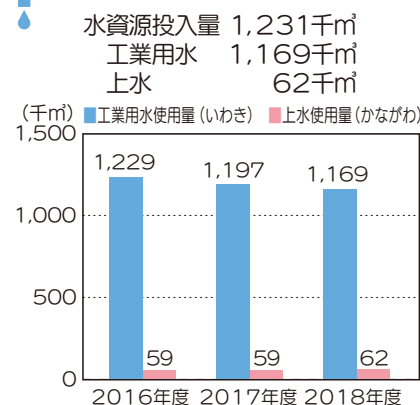
廃棄物受入量



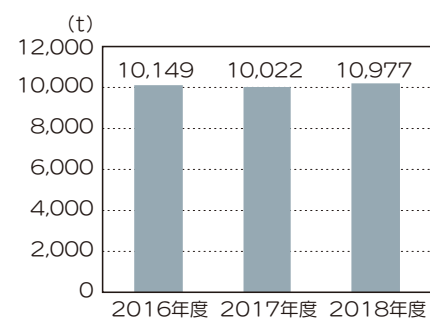
エネルギー使用量 (原油換算)



水資源投入量



原材料の使用量



廃棄物処理



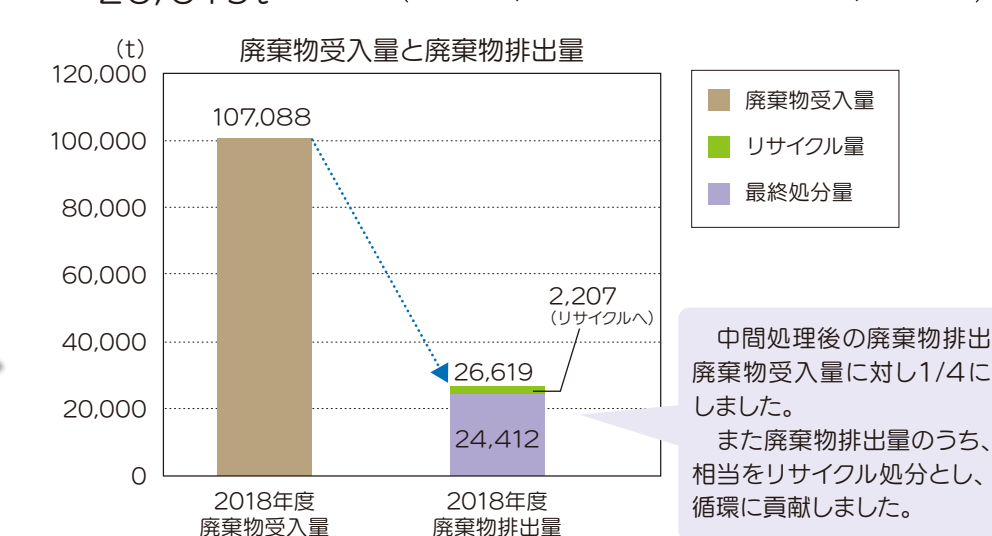
ウェステックいわき



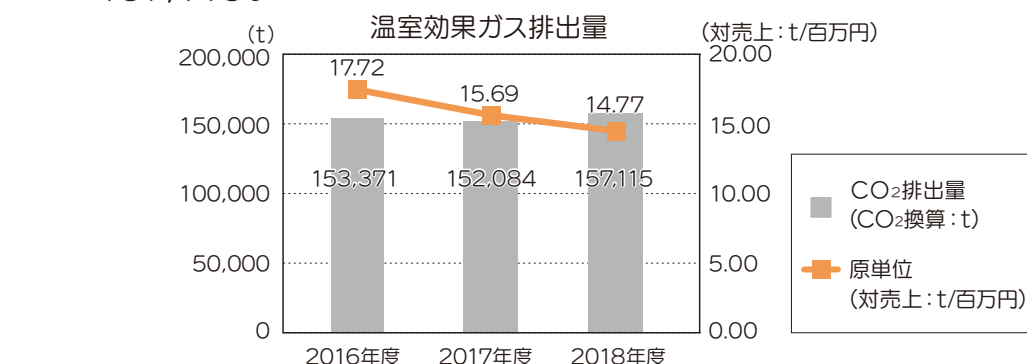
ウェステックかながわ

アウトプット

廃棄物排出量



温室効果ガス排出量 (CO₂換算)



排水量

1,169千㎡
ウェステックかながわではクローズドシステム(排水を外部に出さず再利用するシステム)を採用しているため、排水量はウェステックいわき分のみの計上となります。



これからもウェステック事業部は、いわき・かながわの二つの施設の特性を生かした産業廃棄物の処理提案を進めてまいります。また、難分解性物質の確実な処理、廃棄物発電の電力供給による温室効果ガス削減などの取り組みを継続することで、環境負荷低減に努めてまいります。

ウェステック事業部
ウェステック企画部長 大岡 幸裕

ウェステックいわき

IWAKI

ウェステックいわきの7・8号焼却炉では、塩素・シリコン類を含む汚泥、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ及び医療系廃棄物を中心に各種廃棄物を無害化处理しています。



7号焼却炉



8号焼却炉



前処理課では、焼却炉の安定稼働および廃棄物の確実な適正処理のために、様々な難処理系廃棄物を物性や性状に応じて、計画的に前処理しております。
今後も従業員一同、安全を最優先に、作業に取り組んでまいります。

ウェステック事業部
いわき処理部 前処理課長 白土 典広

7・8号焼却炉 ロータリーキルン方式

インプット

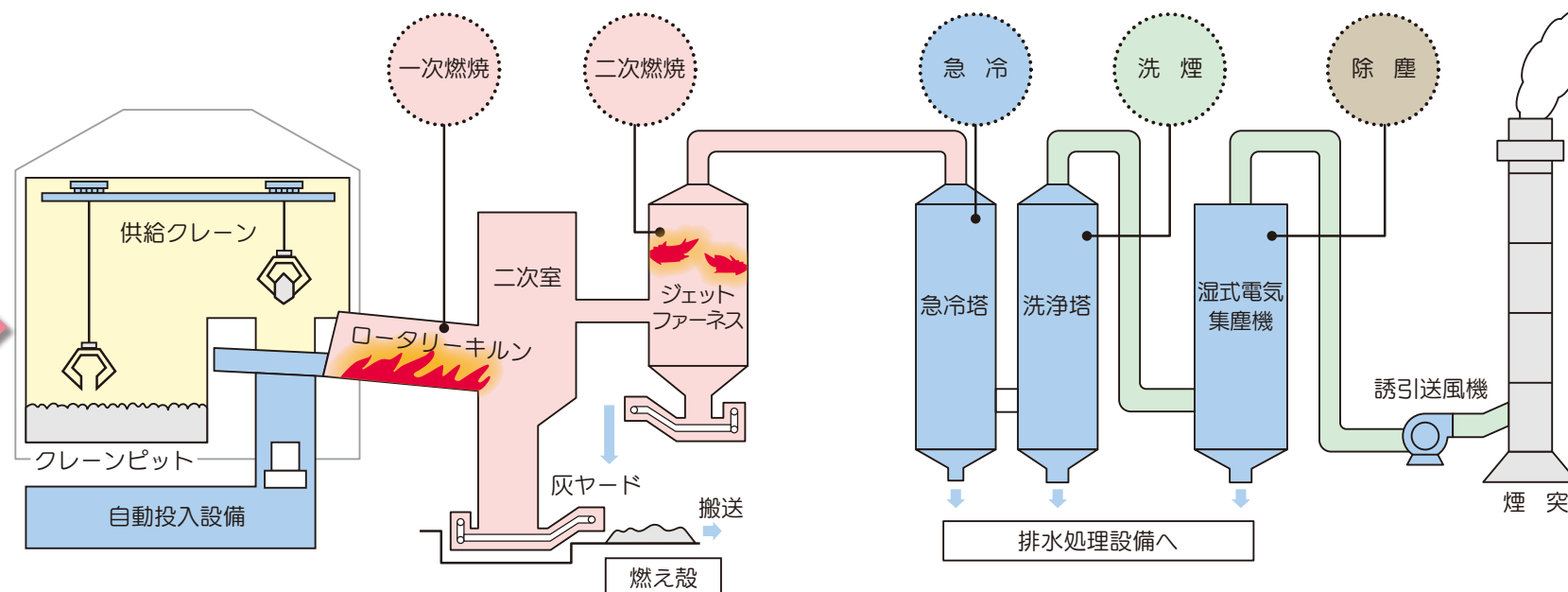
廃棄物受入量 66,876t
焼却処理対象物
→焼却処理施設へ

その他
→その他の処理施設へ

エネルギー使用量
(原油換算) 2,646kl

水資源投入量 1,169千㎡
(排ガス処理に使用)

購入原材料 8,815t



アウトプット

廃棄物排出量 16,577t

リサイクル量 2,006t

最終処分量 14,571t

排水量 1,169千㎡

温室効果ガス排出量
(CO₂換算) 92,181t

7号焼却炉

汚泥の焼却施設 182㎡/日
廃油の焼却施設 110㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設 104t/日
シアン化合物の分解施設 202㎡/日
産業廃棄物の焼却施設 238t/日

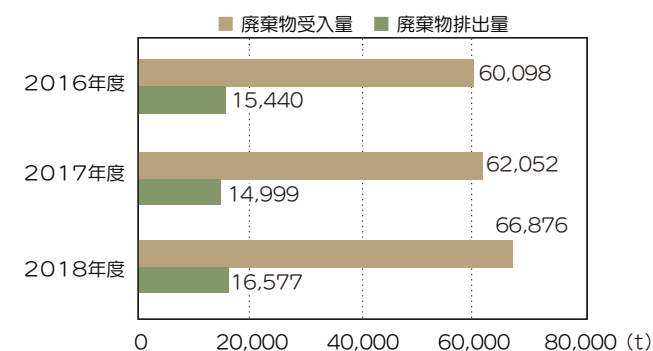
8号焼却炉

汚泥の焼却施設 182㎡/日
廃油の焼却施設 118㎡/日
廃プラスチック類の焼却施設 104t/日
シアン化合物の分解施設 266㎡/日
産業廃棄物の焼却施設 238t/日

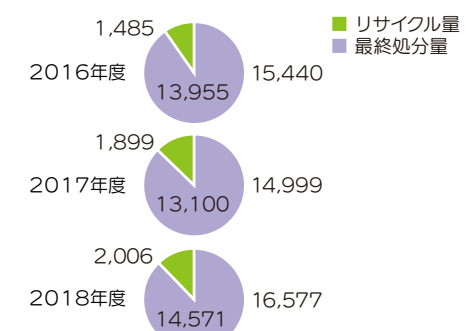


計量所

廃棄物受入量と廃棄物排出量



廃棄物排出量の内訳(t)



ウェステックかながわ

KANAGAWA

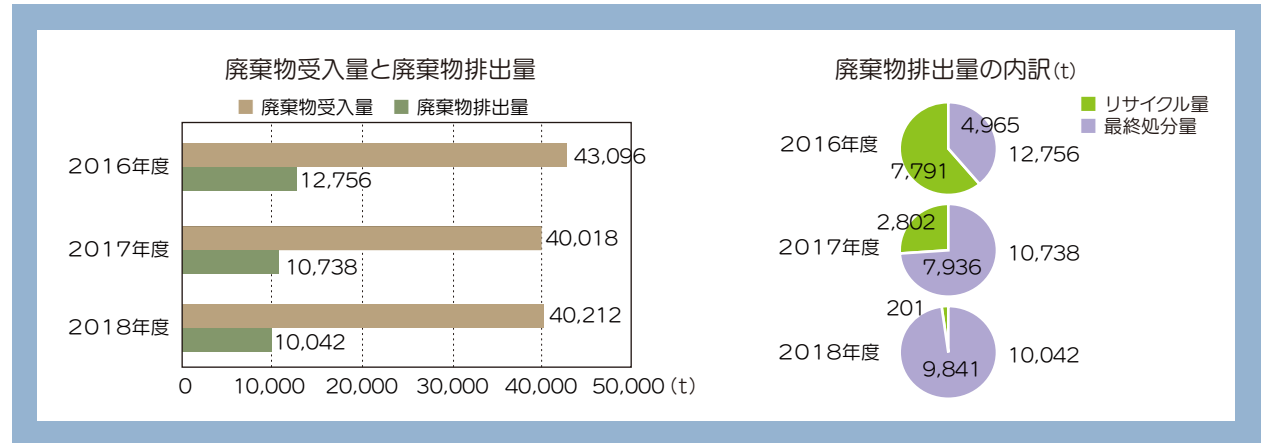
ウェステックかながわでは、産業廃棄物を安全に処理するとともに、排熱を有効に利用して発電しています。

熱量や性状が多様な廃棄物からより多くの電力を供給できるよう、運転ノウハウを駆使して、化石燃料の利用が少しでも削減されるよう努力しております。



「廃棄物焼却時の排熱を利用した発電設備を有する産業廃棄物処理」として川崎市から「低CO₂川崎ブランド'18」に認定されました。社会に貢献する企業の一員として引き続き事業活動に取り組めます。

ウェステック事業部 かながわ処理部
処理技術課長 山野辺 貢市



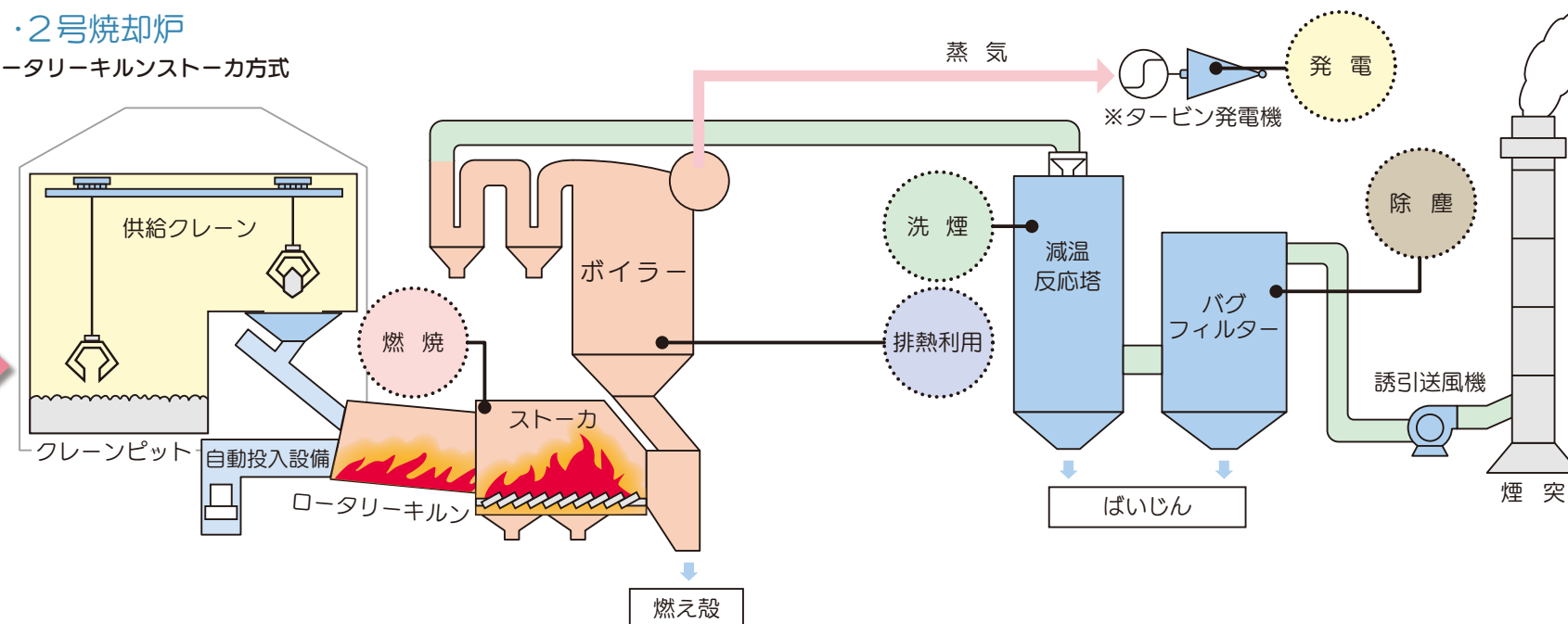
インプット

廃棄物受入量 40,212t
焼却処理対象物
→焼却処理施設へ
その他
→その他の処理施設へ

エネルギー使用量
(原油換算) 298kl
水資源投入量 62km³
購入原材料 2,162t

1・2号焼却炉

ロータリーキルンストーカ方式



アウトプット

廃棄物排出量 10,042t
リサイクル量 201t
最終処分量 9,841t

排水量(注) 0km³
温室効果ガス排出量
(CO₂換算) 64,934t

(注) ウェステックかながわではクローズドシステム(排水を外部に出さず再利用するシステム)を採用しています。

川崎物流センター



ウェステックかながわに隣接した廃棄物の積替え・保管施設です。小型車両で搬入された廃棄物を当社大型車両でウェステックいわきに搬送し、処分します。運搬効率に配慮し、施設を運用しています。

1・2号焼却炉計

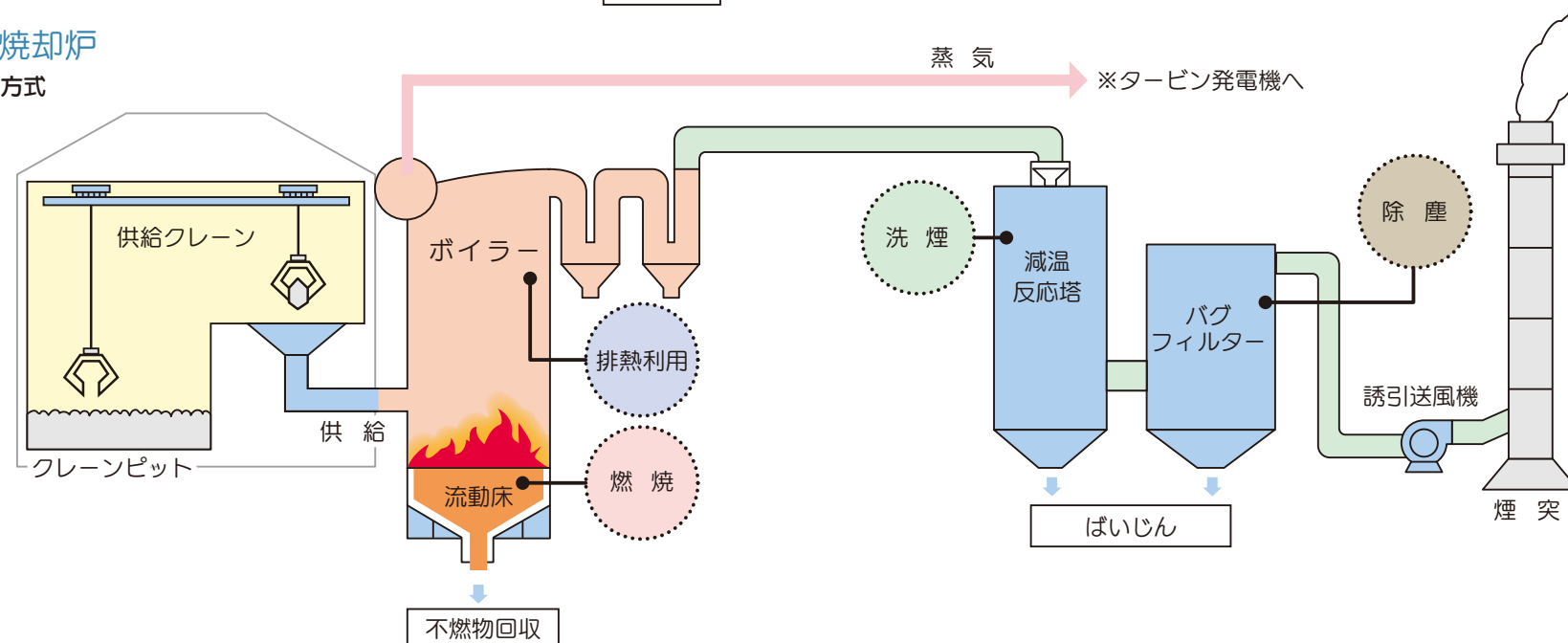
混合焼却 140t/日
汚泥の焼却施設 112m³/日
廃油の焼却施設 150m³/日
廃プラスチック類の焼却施設 80t/日
その他産業廃棄物の焼却施設 230t/日

3号焼却炉

混合焼却 70t/日
汚泥の焼却施設 48m³/日
廃油の焼却施設 75m³/日
廃プラスチック類の焼却施設 40t/日
その他産業廃棄物の焼却施設 115t/日

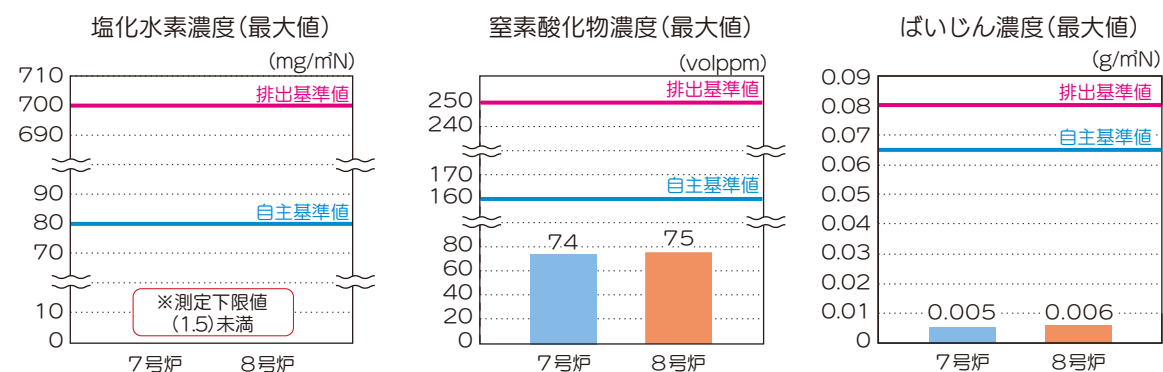
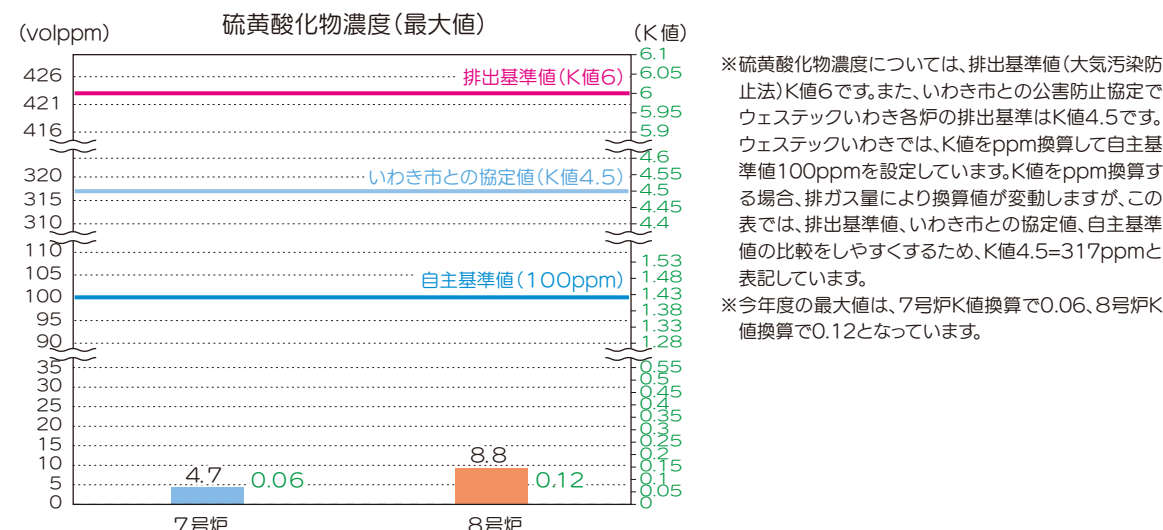
3号焼却炉

流動床方式

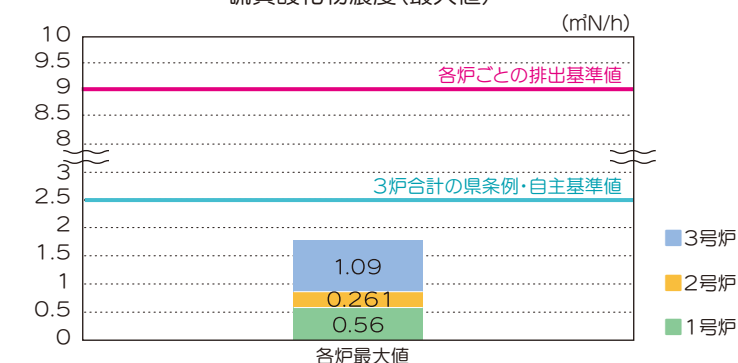


2018年度の焼却炉排煙の硫黄酸化物濃度、塩化水素濃度、窒素酸化物濃度、ばいじん濃度は、廃棄物処理施設の適正な維持管理により全て自主基準値以下で法令等の排出基準を遵守しています。

※排出基準値は、大気汚染防止法の排出基準値を記載しています。

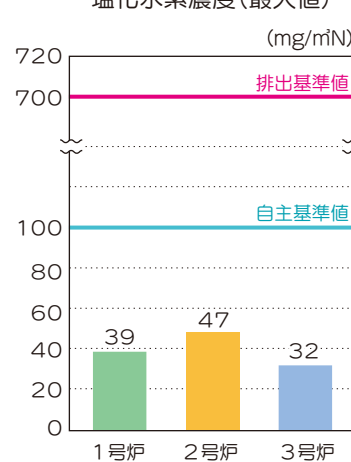


硫黄酸化物濃度(最大値)

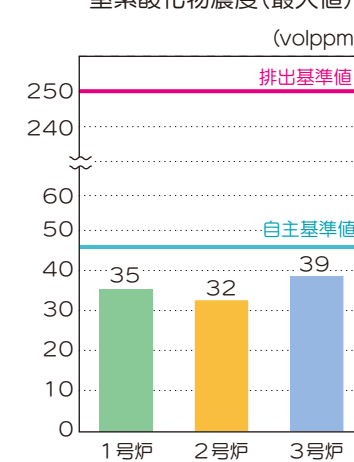


※硫黄酸化物排出量は総量規制となっていますので、排出量で掲載しています。排出基準値(大気汚染防止法)K値規制は、各炉ごとに9.07mN/hです。また、神奈川県条例でウェステックかながわ3炉全体の総量規制は2.52mN/hです。ウェステックかながわでは、総量規制2.52mN/hを自主基準値としています。

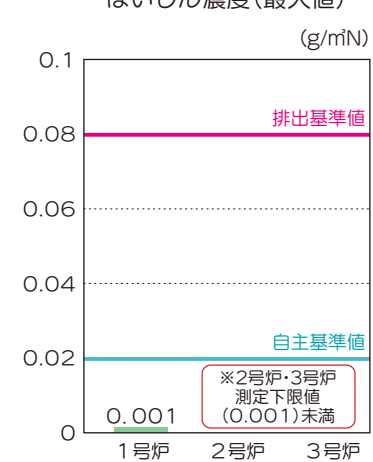
塩化水素濃度(最大値)



窒素酸化物濃度(最大値)



ばいじん濃度(最大値)

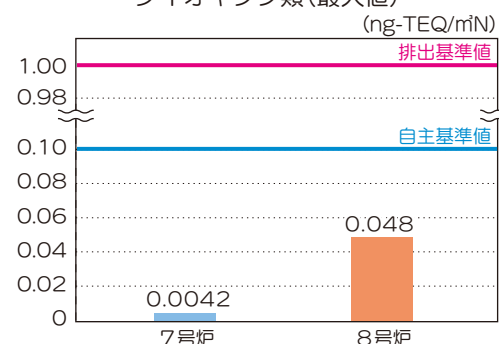


化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)該当品目は31種類あり適切に届出を実施しています。ここでは大気汚染防止法附則の優先取り組み物質の中からダイオキシン類と指定物質のベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンについて記載しています。

ダイオキシン類移動量 1,304mg-TEQ/年	ベンゼン排出量 5.8kg/年
トリクロロエチレン排出量 5.8kg/年	テトラクロロエチレン排出量 5.8kg/年

ダイオキシン類(最大値)



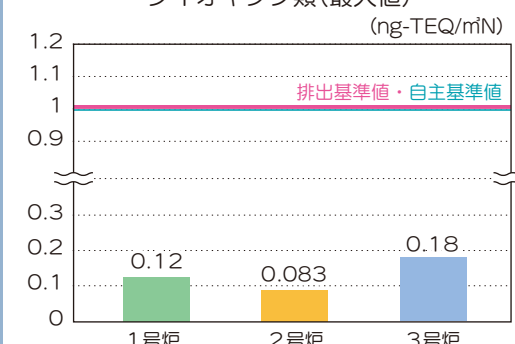
ダイオキシン類については、全て自主基準値未満で法令等の排出基準を遵守しています。

化学物質の排出、移動量

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)該当品目は1種類あり適切に届出を実施しています。

ダイオキシン類移動量
7,945mg-TEQ/年

ダイオキシン類(最大値)



ダイオキシン類については、全て自主基準値未満で法令等の排出基準を遵守しています。

低濃度PCB廃棄物無害化处理

無害化处理の概要

環境大臣の無害化認定を受けた以下の施設で、安全・確実に処理を行っています。

項 目	内 容
施設の名称	7号焼却炉（ロータリーキルン式焼却炉） 8号焼却炉（ロータリーキルン式焼却炉、固定床炉）
施設の種類	廃ポリ塩化ビフェニル等 ポリ塩化ビフェニル汚染物 又はポリ塩化ビフェニル処理物の焼却施設
施設の場所	ウェステックいわき
収 集 運 搬	あり



筐体前処理建屋



固定床炉

下記に記載する、すべての低濃度PCB廃棄物を処理することができます。

	低濃度PCB廃棄物	
	微量PCB汚染廃電気機器等	低濃度PCB含有廃棄物
低濃度 PCB廃油	微量PCB汚染絶縁油 電気機器又はOFケーブルに使用された絶縁油であって微量のPCBに汚染されたもの	低濃度PCB含有廃油 PCB濃度が5,000mg/kg以下の廃油等（主として液状物）
低濃度 PCB汚染物	微量PCB汚染物 微量PCB汚染絶縁油によって汚染されたもの	低濃度PCB含有汚染物 PCB濃度が5,000mg/kg以下の汚泥、紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず、コンクリート破片等の不要物（金属くず等）に付着したもののPCB濃度が5,000mg/kg以下のもの
低濃度 PCB処理物	微量PCB処理物 微量PCB廃油、低濃度PCB汚染物を処分するために処理したもの	低濃度PCB含有処理物 PCB廃棄物を処分するために処理したものであって、PCB濃度が5,000mg/kg以下のもの（金属くず等は付着物のPCB濃度）

微量PCB汚染物には廃電気機器等（筐体）を含みます

クレハ環境のワンストップソリューション



全国の低濃度PCB廃棄物を収集運搬から処分まで一括して請け負うことが可能です。知識豊富な営業マンが、現地確認から処理完了まで、ワンストップで対応いたします。お困りごとは、当社へ是非ご相談ください！

営業本部 低濃度PCB営業部
低濃度PCB営業課 係長 高島 佑介

W.I.Lセンター^{※注}

※注 「W.I.Lセンター」とは、ウェステックいわきロジスティクスセンターの略です。
(Wastech Iwaki Logistics)

2019年4月より、W.I.Lセンターの運用を開始しました。

お客様のサイトで解体しなくても、当社W.I.Lセンターなら、30tまでの大型廃電気機器を、そのまま迅速・安全に解体が可能です。



大型の廃電気機器等を解体せずにそのまま搬入し、当センター内で保管・解体作業ができるようになりました。

機械解体による作業性向上と保管スペースの活用によって、作業時間の短縮と廃棄物保管能力の向上が図られました。より迅速かつ柔軟な処理サービスの提供が可能です。



現地から搬出できない場合でも、当社なら現地解体による搬出も可能です。

当社は、これまで培ってきた処理技術とW.I.Lセンターの運用により、安全かつ適正な低濃度PCB廃棄物の無害化处理推進に貢献できるよう、努力を続けてまいります。



仮設解体建屋設置



廃電気機器解体前



廃電気機器解体



廃棄物搬出荷姿

環境エンジニアリング事業



環境営業部では、独自の技術を活かした環境プラント設備で国内外のお客様にサービスを提供し、環境保全・地球環境保護および循環型社会の構築を目指して、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しております。

環境エンジニアリング事業部 環境営業部
環境プラント営業課長代理 坂口 雅也



環境技術部では環境関連設備の計画から基本設計、詳細設計、施工管理、試運転、アフターサービスまで一貫した体制により責任ある高度な技術を提供いたします。

環境エンジニアリング事業部 環境技術部
水環境技術課長 根本 健三

VOC排ガス処理設備

溶剤回収・脱臭・排ガス処理装置

【GASTAK】

当社のGASTAKは、排ガスに含まれる有機溶剤の回収や、排ガス中の有害・悪臭物質の除去を目的とした画期的な排ガス処理装置です。



GASTAK®
「コンバーテック」
加工技術研究会より抜粋

環境機器の製造・納入を通して地球の環境保全に貢献しています。

水処理設備

水酸化カルシウム溶液注入設備【オネストライマー】

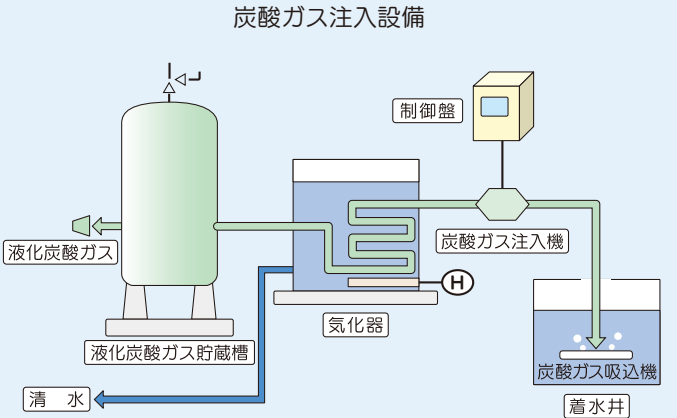
水道事業者向け水酸化カルシウム溶液注入設備(オネストライマー)は全国各地の浄水場に導入され、水道施設(浄水配水設備)の腐食防止、大幅な寿命延長により、安全でおいしい水への水質改善に効果を発揮しています。



水酸化カルシウム溶液注入設備
(提供：東京都水道局 長沢浄水場)

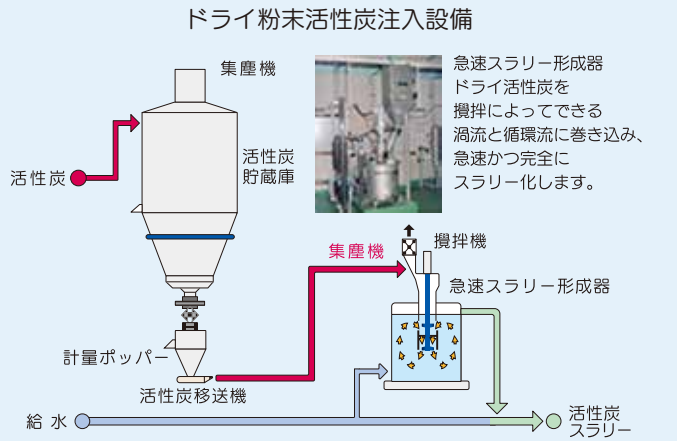
炭酸ガス注入設備

高pH値の原水を浄水処理するには、凝集処理時の原水のpH値を適正にコントロールする必要があります。pH値を下げるための薬品は種々ありますが、安全性・取扱性に優れた薬品である炭酸ガス(二酸化炭素)を用いた注入設備です。



ドライ粉末活性炭注入設備

ドライ粉末活性炭注入設備は、原水中に存在するカビ臭などの異臭味物質や油脂類の吸着除去に有効なドライ粉末活性炭を貯留および注入する設備です。



シャロークリーン

河川や湖沼の富栄養化が進んだ結果、湖沼・貯水池では藍藻類によって引き起こされる『アオコ』が問題となっています。『シャロークリーン』は、『アオコ』の必須要素の一つである光に着目し、水面の一部を必要最小限遮光することにより、水中の生態系を破壊せず、藻類の異常増殖を制御します。



シャロークリーン未設置



シャロークリーン設置
84日経過



安全文化の再構築

2018年度は、「安全文化の再構築」を安全衛生管理方針に掲げて活動してきました。

当社の安全文化の現在の状況を客観的に把握するため、保安力向上センターの若倉正英センター長の助力を得て、いわき処理部、かながわ処理部を対象とした階層別インタビューを実施しました。それぞれの階層で感じている問題点を本音で語ってもらうことで弱点の洗い出しを行いました。今後は、その洗い出された弱点の改善だけでなく、全体的な安全文化のレベルアップも進めていきます。

安全管理体制については、安全管理者に選任する前に受講することが法的に定められている安全管理者選任時研修を、これまで受講したことのない部長以上の管理者全員が受講し、安全管理に関する知識の習得を進めました。この受講は、今後、課長クラスにも拡大し、管理者として安全管理に何が必要であるのかの理解を深め、安全管理体制のレベルアップを目指していきます。

また、新聞やインターネットで当社の各事業にも発生する可能性のある他社の事故の情報を収集、社内展開し、危険予知(KY)やリスクアセスメントをする際の危険源(リスク)抽出の視点として活用し、危険感受性のアップを目指しています。

従業員だけでなく、関係する方の誰もが怪我することなく家族とともに笑いあえるよう「安全はすべてに優先する」を肝に銘じ、安全衛生活動を行ってまいります。



2018年度の取り組み

- ①災害発生危険個所の抽出と防護対策の実施
- ②外部知見を活用した安全文化の弱点把握
- ③安全管理体制の強化
- ④教育の充実化
- ⑤社長・取締役等によるパトロールの強化
- ⑥指差し呼称の徹底・定着
- ⑦安全意識高揚のための社内放送

2018年度

安全衛生管理方針
株式会社クレハ環境

・「安全はすべてに優先する」

との基本理念に立ち、全社一丸となって安全衛生活動に取り組み、安全文化を構築する。

・「決められたことは必ず守る・守らせる」職場風土をつくる。

・健康で明るく働きやすい職場をつくる。



社長パトロール(ウェステックいわき)



社長パトロール(ウェステックかながわ)

●労働安全衛生マネジメントシステム認証取得

当社では安全レベルのさらなる向上のため、労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の規格化に合わせ、登録認証の準備をしてきました。2019年3月に登録審査機関による認証審査を受審し、同年4月に認証登録されました。今後は、そのマネジメントシステムを有効に活用し、誰も痛い思いをしない職場作り、安全文化の再構築を推進していきます。



安全衛生活動

●指差呼称実施状況

「指差呼称」は、作業や動作の区切りで作業対象を指さし、その名前やこれから行う動作を声に出す行為です。これにより、緊張感や集中力を高める効果が狙えるとされています。

当社でもこの「指差呼称」を取り入れ、作業時は元より、車両運転時や工場内の歩行時など多くの場面での実施を指導しています。また、工場内で作業に当たっていただく協力会社の方にも実施励行をお願いしています。

今年度も指差呼称の徹底を啓発・教育の結果、100%に近い実施率となりました。今後も引き続き実施徹底を図ってまいります。

指差呼称実施率(ウェステックいわき内) (%)

実施	年度	2016	2017	2018
人		99.0	99.8	99.9
フォークリフト		99.6	100.0	100.0
大型車両		99.4	99.5	99.7
乗用車		100.0	98.6	100.0
2・4t車両		99.3	98.8	99.2



●防災訓練実施

ウェステックいわきでは、勿来消防署の皆さまにご協力いただき、薬傷事故と火災発生を想定した総合防災訓練を実施しました。

薬傷事故対応の訓練では、「漏洩対応していた作業員1名が薬傷し、救護したのちに病院へ搬送。」というシナリオの下、各隊ともきびきびとした動きで訓練にあたりました。

その後、火災発生を想定した訓練に移り、「ドラム缶から噴出した可燃物が静電気により引火し、火災が発生。」というシナリオで消火活動と放水訓練を行いました。



ウェステックいわき防災訓練
(2018年10月3日)



ウェステックかながわでは、首都直下型地震発生とそれに伴う火災発生を想定した訓練を行いました。

大地震発生時を想定した訓練では、「震度6強(マグニチュード7.2)の首都直下型地震が発生。施設の点検及び二次災害の防止に努めるとともに、従業員の安否確認、津波などの情報収集を行う。」というシナリオの下、各隊の動きを確認しました。

その後、火災発生を想定した訓練に移り、「地震を受けて低負荷運転を行っていた焼却炉が燃焼不安定となったことをきっかけに、投入口付近で火災が発生。この火の粉により、貯留ピット内で火災が発生。」というシナリオで消火訓練を行いました。



ウェステックかながわ防災訓練(2018年9月29日)

●パトロール結果・ヒヤリハット(潜在災害)摘出状況

管理職による工場内パトロールを毎月実施しています。複数部署からパトロールメンバーが参加することにより、様々な視点から危険箇所・危険状態を発見することができ、それらに対する安全対策を講じています。

2018年度も工場内における足元の危険(段差などによる転倒の恐れ)についての指摘が多く、このことは下記のヒヤリハット摘出状況(交通事故を除く)にも表れています。

災害発生件数

事故内容	年度	2016	2017	2018
人	死亡事故	0	1	0
身	休業災害	0	1	0
災	不休災害	1	0	0
害	赤チン災害	1	2	6
	重大ヒヤリ事故	0	0	0
物	損事故	8	10	10
交	通事故	19	18	19
そ	の他	1	0	0
合	計	30	32	35

ヒヤリハット摘出状況

事故の型	年度	2016	2017	2018
挟まれ		22	28	29
巻き込み		1	4	1
転倒		230	253	237
転落墜落		25	38	22
刺傷裂傷		42	43	48
打撲激突		59	85	104
飛来落下		40	45	53
眼部受傷		13	18	17
薬傷火傷		107	90	76
感電事故		0	0	1
交通事故		434	465	392
設備損害		11	17	29
その他		37	58	68
合計		1,021	1,144	1,077



「安全はすべてに優先する」を基本理念に、安全文化の再構築を目的とした安全文化評価の実施、安全管理体制の見直し、社内教育機会・幹部パトロール機会の拡充などに取り組んでまいりました。安全の取り組みに終わりはありません。今後ともさまざまな取り組みを継続して実施してまいります。

環境安全本部 環境安全課 担当課長 室岡 桂

●安全文化の再構築に向けて ～安全コンサルタントによる講演会を実施～

労働安全コンサルタントによる講演会を本社で開催しました。特定非営利活動法人保安力向上センターの若倉正英センター長が講師を務め、72名の従業員が聴講しました。

講演は、廃棄物を取り扱う業界における安全力向上の課題をテーマに行われ、過去に発生した労働災害の事例とその原因について解説してくださいました。また、若倉講師ご本人が「保安力評価システム」の構築に中心となって携わったご経験から、安全文化構築へのポイントについても事例を交えて解説していただきました。



2018年10月23日実施

地域とともに

地域交流会



ウェステックいわきにおいて、周辺4地区の皆様との交流会を定期的の実施しております。

当社の事業内容についてご理解いただくとともに、様々なご意見やご質問をいただける、とても有意義な機会ととらえております。

今後も、地域の一員として、地域と共生し、貢献し続けられるよう事業活動を行ってまいります。



クレハグループ CSR地域対話集会



2018年11月30日実施



クレハグループのCSR地域対話集会が、いわき事業所で行われました。

「ウェステックいわき 安全・安心操業への取り組み」と題し、ご紹介しました。

対話集会終了後は、ご希望の方に視察会にご参加いただき、当社のウェステックいわきもご視察いただきました。

小学生がウェステックいわきを見学 ～さんぱい処理を学ぶ～



2日間に分けて、いわき市立錦小学校の4年1組と2組の元気いっぱいの子供たちをお招きし、ウェステックいわきの見学会を行いました。産業廃棄物のごみ処理の流れや設備について紹介し、ごみ処理の大切さを学んでもらいました。

児童の皆さんにとっては、聞き馴染みのない「産業廃棄物処理」というテーマではありましたが、見学後の感想を聞くと「楽しかった!」「ここで働きたい!」と答えてくれました。

ウェステックいわきでは、今後も環境学習の場を提供してまいります。



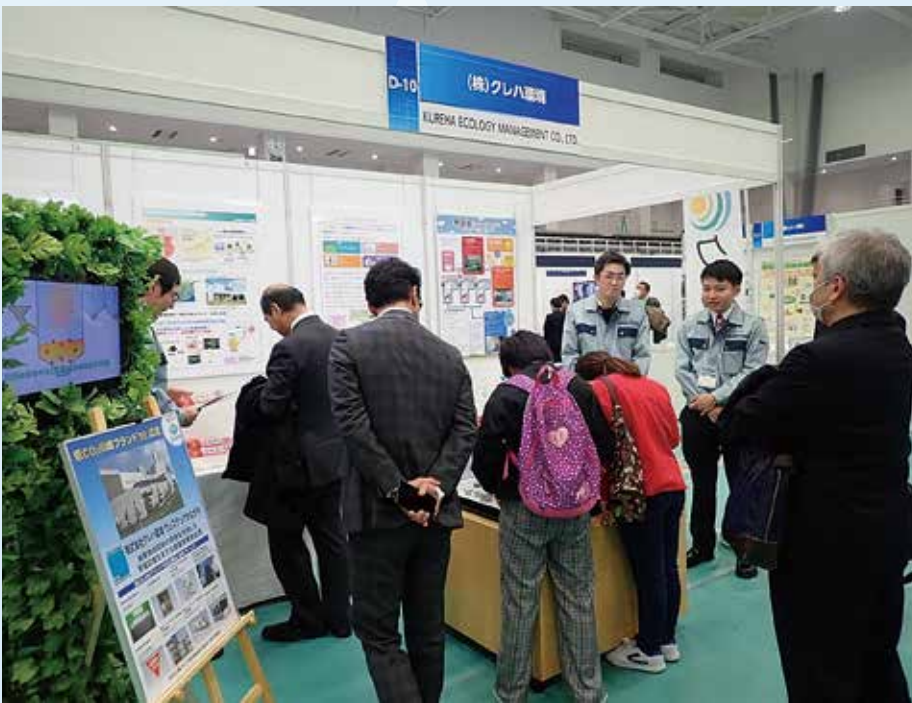
2018年10月2日、12日に実施



川崎国際環境技術展に出展 ～“イメージしやすい環境教育”をテーマに～

カルッツかわさき(川崎市)において開催された「第11回川崎国際環境技術展」に今年も出展しました。当社のブースにも行政関係者や企業の方に加え、一般の方や小中学生、海外からの来場者など多くの方にお立ち寄りいただきました。

廃棄物発電によるCO₂削減や、産業廃棄物を適正に処理することの大切さを学んでもらうことができました。



2019年2月7日～8日で実施

さまざまな取り組み

不法投棄をなくそう ～いわき市不法投棄撤去活動～



一般社団法人福島県産業資源循環協会
いわき支部地域協議会の一員として、今年もいわき市不法投棄廃棄物撤去活動に参加しました。

当社からは新入社員3名を含む6名の従業員が参加し、約90名の参加者と共に「不法投棄 しない させない ゆるさない」と書かれたベストを着用して、廃棄物の撤去と不法投棄防止の啓発を行いました。



2018年6月1日実施

経産省 事業者クラス分け評価制度 ～4年連続Sクラス評価を獲得～

経済産業省資源エネルギー庁による「事業者クラス分け評価制度」の結果が公開され、当社は省エネ優良事業者(Sクラス)と評価されました。(平成30年度報告分)

当社がSクラスに選ばれるのは、2016年の制度開始から4年連続となります。

この制度は、省エネ法の定期報告を提出する全事業者をS・A・B・Cの4クラスに分けて評価するものです。Sクラス評価を受けた事業者は、資源エネルギー庁のホームページ内で公表されています。



【当社の省エネルギーへの取り組み】

当社では廃油や再生油を利用し、重油等の化石燃料資源の節約に貢献しています。また、焼却炉を最適な運転条件で稼動することで、燃焼効率の向上(=省エネ)を図っています。

また、ウェステックかながわでは、廃棄物を処理した際の排熱を使って発電を行っています。発電した電力は施設内で使用する他、売電も行っています。

今後も、より少ないエネルギーでの事業運営を目指して省エネ活動に取り組んでまいります。

「低CO₂川崎ブランド'18」に認定 ～廃棄物発電でCO₂削減に寄与～

川崎市が取り組む「低CO₂川崎ブランド」事業において、ウェステックかながわの「廃棄物焼却時の排熱を利用した発電設備を有する廃棄物処理」がブランドとして認定されました。

ウェステックかながわの焼却施設では、廃棄物を焼却する過程で発生する排熱をボイラーで回収して発電を行っています。発電により事業所内の電力をまかなうことで、化石燃料を由来とする電力の使用量(購入電力量)を削減しており、発電設備の無い焼却施設と比較して、購入電力を約94%削減する効果があります。



左から、福田 川崎市長、名武 前社長、
運営を行う低CO₂川崎ブランド等推進協議会の足立 会長



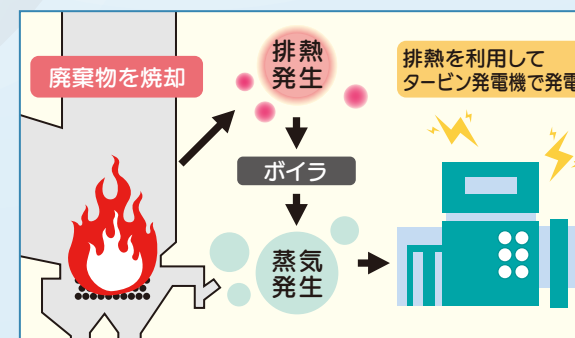
2019年2月7日実施の
表彰式にて



●ウェステックかながわにおける廃棄物発電(サーマルリカバリー)

ウェステックかながわは焼却炉3基の排熱を回収するサーマルリカバリーにより最大4,800kWの発電能力があります。

発電された電力はウェステックかながわで使用し、余剰電力は売電しています。余剰エネルギーを電力の形で社会に還元し、環境負荷低減に貢献しています。

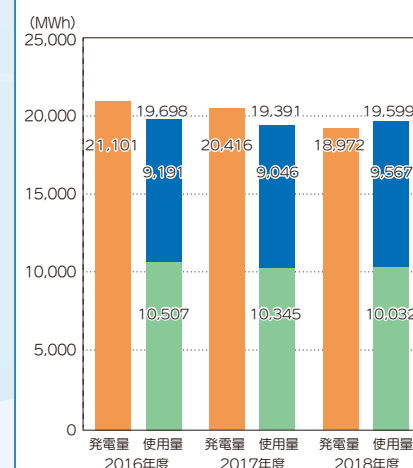


サーマルリカバリーのイメージ図



タービン発電機

廃棄物発電量と電力使用量



色の区分
■ かながわ発電量 ■ いわき使用量 ■ かながわ使用量

※このグラフは、ウェステックかながわにおける廃棄物発電量が、(ウェステックかながわ+ウェステックいわき)の全電力使用量に匹敵するものであることを示しています。

さまざまな取り組み

「排出事業者責任」講演会開催 ～処理委託に伴う事業者責任への理解深める～



2018年11月8日実施

当社の顧問弁護士である芝田稔秋弁護士と芝田麻里弁護士を講師に迎え、第5回「排出事業者責任」講演会を開催し、当社の取引先企業である排出事業、収集運搬業、処分業などを担う企業より120名を超える多くの方々にご出席いただきました。

廃棄物処理に関わる法令の理解を深めるとともに、コンプライアンス遵守の意識を高めることを目的に2014年から毎年開催しております。

お客様から選ばれ続ける会社になろう ～優良産廃処理業者認定制度～

【優良産廃処理業者認定制度とは？】

通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。平成23(2011)年4月1日の廃棄物処理法改正により運用が始まりました。認定では、通常の廃棄物処理業の審査に加え、①遵法性②事業の透明性③環境配慮の取組④電子マニフェスト⑤財務体質の健全性の観点から審査がなされ、管轄の自治体により認定されます。

【当社の取得状況】

当社では、いわき市の(特別管理)産業廃棄物処分業や、その他22都道府県の収集運搬業において、当認定を頂いています。更にこの度、2018年5月1日付で新たに川崎市の(特別管理)産業廃棄物処分業での認定を取得いたしました。

【優良認定取得のメリット】

認定を取得した企業は、交付される許可証の右上に「優良」のマークが付くことで、取引先様等に対して優良認定業者であることをアピールできるほか、産業廃棄物処理業の許可の有効期間の延長等の優遇措置を受けることができます。

これからも継続して優良認定を頂けるよう、さらなる努力を続けてまいります。



プロドライバーの心構え学び事故防止へ ～通運課が安全運転研修を受講～



通運課の従業員を対象に、ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社様による安全運転研修を本社で実施しました。この安全運転研修では、ヤマト運輸株式会社様で実践されている安全運転方法、事故防止の取り組みなどを、同社の元安全指導長の方から指導していただきました。前半は講義形式で安全指導していただき、後半は実車を使いながら、車両特性や危険箇所など、長年のドライバー経験で忘れてしまいがちな基本運転動作を確認しました。

今後も安全運転に関する研修を継続して行い、安心・安全な収集運搬業務を実践してまいります。



2018年9月29日実施

知識を深めて安全性を高めよう ～フルハーネス型墜落制止用器具の特別教育～

フルハーネス型墜落制止用器具に関する特別教育を本社とウェステックかながわで行われました。

労働安全衛生法が2018年6月に改正(2019年2月1日施行)され、高所作業者の墜落制止用器具は原則フルハーネス型を使用すること、フルハーネス型を使用して作業する者に特別教育を実施することなどが新たに規定されたことを受けて実施されたもので、フルハーネス型の正しい使用方法や点検方法、高所作業での労働災害事例、関係法令などを学びました。

当社従業員は、正しい知識と正しい使用方法で、安全作業に努めてまいります。



フルハーネス型墜落制止用器具に関する特別教育の様子



さまざまな取り組み

ウェステックかながわ 「かながわプラごみゼロ宣言」に賛同

SDGs(持続可能な開発目標)を推進する神奈川県では、2030年までのできるだけ早い時期にリサイクルされないプラスチックごみをゼロにすることを目指すとして「かながわプラごみゼロ宣言」の取り組みを開始しました。

ウェステックかながわでは、この「かながわプラごみゼロ宣言」に賛同し、プラごみゼロに向けた以下の具体的な取り組みを実施します。

～ウェステックかながわのプラごみゼロに向けた具体的な取り組み内容～

- 1. ウェステックかながわの従業員に対して環境学習を行う。
プラごみ削減に努めるようメール配信での周知、事業部内に啓発ポスターの掲示等。
- 2. 出展する第11回川崎国際環境技術展での配布物を入れるプラスチック製の手提げ袋の使用をやめ、再生紙を使用したものに変更する。また、工場見学者にもプラスチック製の袋をご提供しない。

宣言に賛同したウェステックかながわに限らず、地球に住む私たち一人ひとりがプラスチックごみ削減に向けた行動に取り組むことが求められています。自分にできることを考え、行動に移すことが大切です。



当社のマテリアルリサイクル

当社は中間処理後に排出される自社の廃棄物の一部を外部委託によりマテリアルリサイクルしています。

写真は中央電気工業株式会社様(当社委託先)ご提供のリサイクル製品の使用例です。



最終処分までの一貫したサービス提供へ ～ひめゆり総業株式会社を完全子会社化～

2019年4月1日にひめゆり総業株式会社の全株式を取得し完全子会社としました。
当社はこれまで産業廃棄物の収集運搬・中間処理を通して、地球環境の保全に努めてまいりました。今回、最終処分場を営む該社を完全子会社化することにより、産業廃棄物の収集運搬から中間処理、最終処分までの一貫したサービスの提供が可能となり、より一層お客様や地域の皆様のニーズに応えられる体制となりました。

今後も引き続き、廃棄物の適正処理を通じて地球環境の保全に努め、地域社会とともに発展する会社を目指してまいります。



ひめゆり総業株式会社 社屋



最新の脱窒素技術を導入した浸出水処理施設



2018年に完成した平太郎第三期処分場

当社は、人と社会、そして地球環境との調和を大切にする地域に根ざした会社として、これからもたゆまぬ努力を続けてまいります。

沿革

1971年	12月	呉羽梱包株式会社設立
1975年	10月	社名を呉羽業務株式会社に改める
1977年	3月	福島県産業廃棄物収集・運搬業・処分業許可取得
1984年	7月	社名を呉羽環境株式会社に改める
1986年	10月	7号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1993年	5月	8号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1998年	3月	ISO14001認証取得
1998年	4月	7号焼却炉 自社開発により更新
2006年	4月	社名を株式会社クレハ環境に改める
2006年	6月	資本金を2億4000万円に増資
2010年	4月	かながわ事業所を開設
2011年	4月	川崎物流センターを開設
2012年	4月	環境ソリューション事業部を開設
2014年	4月	ウェステックパークをウェステックいわきに、 かながわ事業所をウェステックかながわに改める
2017年	3月	ISO9001認証取得
2019年	4月	ひめゆり総業株式会社を完全子会社化 W.I.Lセンター開設 ISO45001認証取得

営業に関するお問い合わせ

廃棄物に関するお問い合わせ	エンジニアリングに関するお問い合わせ
営業本部 TEL 0246-63-1331	環境営業部 TEL 0246-63-1358
FAX 0246-63-1332	FAX 0246-63-1359

本書に関するお問い合わせ

環境安全部 環境品質課	TEL 0246-63-1333
	FAX 0246-63-1232

本環境報告書2019は、ウェブサイトでも公開しております。
<http://www.kurekan.co.jp/information/>

MEMO



いこいの広場



展示コーナー

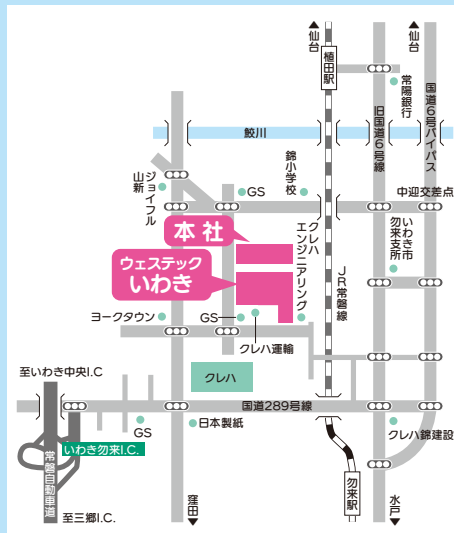


地域交流ホール



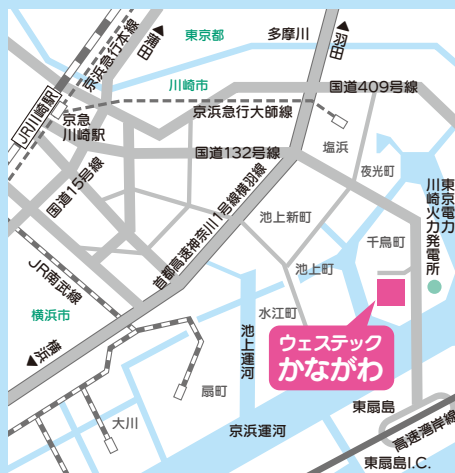
本 社

所在地：福島県いわき市錦町四反田30番地



ウェステックかながわ

所在地：神奈川県川崎市川崎区千鳥町6番1号



株式会社クレハ環境

福島県いわき市錦町四反田30番地
<http://www.kurekan.co.jp/>

◆お問い合わせ先◆

環境安全本部 TEL. 0246-63-1333
 FAX. 0246-63-1232

Fontworks
 UD Font



読みやすい、フォント
 ワークスUD (ユニバー
 サルデザイン) フォン
 トを本文に使用してい
 ます。

植物油溶剤のインキを
 使用しています。

●この印刷物は、「FSC認証紙」を使用しています。

2019年10月発行